

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
国際情報工科自動車大 学校		平成13年12月11日		和田 秀勝		〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-15 (電話) 024-956-0030																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人 国際総合学園		平成7年3月24日		池田 祥護		〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	高度情報工学科					平成22年文部科学省 告示第35号																		
学科の目的	ウェアラブルデバイスやモーションセンサーの発達により、先進的な技術が注目されています。高度で実践的な授業展開を行いその先進的技術に対応でき、世界に通用する技術者の育成を行う。																								
認定年月日	令和2年3月25日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技																		
4年	昼間	3794時間	1296時間	810時間	1688時間	0時間	0時間																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
40人	25人	0人		1人	4人	5人																			
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年2回のテスト実施。評価点数の応じた4段階評価。																				
長期休み	■新緑休業: 4月29日～5月7日 ■夏季休業: 7月25日～8月31日 ■冬季休業: 12月25日～1月7日 ■春季休業: 2月11日～4月10日			卒業・進級 条件	■総出席率90%以上 ■科目評価すべての科目C以上 ■基準検定の取得・課題・作品の提出																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・定期面談の実施 ・必要に応じた三者面談の実施 ・出席管理			課外活動	■課外活動の種類 ・ボランティア活動(各種ボランティア活動実施) ・学園祭実行委員会(学園祭の告知、PR) ・卒業パーティー実行委員会(卒業パーティーの企画運営) ■サークル活動: 有																				
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 株式会社ラック、プリマックス株式会社 ■就職指導内容 就職研修開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別 面接指導など ■卒業生数 2 人 ■就職希望者数 2 人 ■就職者数 2 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人  (令和 元 年度卒業生に関する 令和2年度5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月31日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③の いずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得する もの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ITパスポート	③	2人	2人	基本情報技術者	③	2人	2人	応用情報技術者	③	2人	2人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
ITパスポート	③	2人	2人																						
基本情報技術者	③	2人	2人																						
応用情報技術者	③	2人	2人																						
中途退学 の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成31年4月1日時点において、在学者25名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者25名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 無 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制度の採用、学生と定期的な個別面談の実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談など																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 【各種特待生制度】 受験する際に書類審査・面接試験結果、ランク判定により5万円～25万円の授業料免除 【進級時特待生制度】 2年生、3年生および4年生に進級する際、一定の条件を満たした者に対して5万円または10万円の授業料免除 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://wiz.ac.jp/">http://wiz.ac.jp/</a>																								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界団体、学術有識者や業界企業などで編成する「教育編成委員会」を設置。業界の専門性に関する動向や産業振興の方向性など、今後必要となる知識、技術、技能など十分に把握、分析を行い実践的職業教育に必要となる授業科目の開設や授業内容の改善と提案を行い、企業の要請をいかしつつ教育の質の確保と向上に努める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は現状の教育課程内容を認識し、関係する業界動向を業界動向、最新の知識、機材、手法等と併せて改善が必要とされる課題を抽出し、新教育課程案を作成する。業界動向、外部環境等と併せた分析、考察を行い総合的に検討、評価し新教育課程を決定する。新教育課程は次年度以降の教育課程に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年5月31日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 秀明	公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	①
山ノ井 靖	有限会社 山ノ井商事	平成30年8月28日～ 令和2年7月31日(2年)	③
原田 賢一	有限会社 ワイズマン	平成30年8月28日～ 令和2年7月31日(2年)	③
浅井 渉	株式会社 dott	平成30年8月28日～ 令和2年7月31日(2年)	③
國井 稔	国際ゲーム開発協会東北(IGDA東北)	平成30年8月28日～ 令和2年7月31日(2年)	③
和田 秀勝	国際情報工科自動車大学校 学校長	平成25年11月1日～	
阿部 一則	国際情報工科自動車大学校 教務部長	平成28年4月1日～	
鈴木 友二	国際情報工科自動車大学校 統括学科長	平成30年4月1日～	
村島 敏治	国際情報工科自動車大学校 情報分野学科長	平成28年4月1日～	
村上 聖矢	国際情報工科自動車大学校 情報分野教員	平成28年4月1日～	
矢吹 亮太	国際情報工科自動車大学校 情報分野教員	平成28年4月1日～	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和元年8月5日 15:00～15:30

第2回 令和2年2月17日 14:00～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・最先端技術としてIoTやビックデータを扱う技術が必要になるため、クラウド、無線通信の試験を入れると就職に有利になれる。合わせて外部講師の必要性についてお話があり検討する必要がある。

連携企業である株式会社dottより講師を派遣、クラウドについての特別授業を実施。

・アジャイル(スクラムなど)開発手法を学ぶことが必要である。特別講義等を利用してでも実施すべき。→アジャイル開発が脚光を浴びているので外部講師によるアジャイル開発セミナーを検討したい。ただ、学内開発授業については従来のウォーターフォールモデルによる開発をしっかり指導したい。

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

卒業後の即戦力を目指すため、最新OSに関する実習内容を強化し、受入れ企業に対しては、マンツーマンの指導者対応を要請するとともに、複数部署での実務研修を実施する方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生個々の課題、目標を明確にし、企業側担当者による到達度、評価を、文書とともに点数化し、スキルアップを図る。

また、開発授業に顧客目線・企業目線からの視点を加える事により、より実践に近い授業展開を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
LAMP演習	仮想店舗を設定し、顧客向けWebサイト構築を行う。	有限会社 山ノ井商事
卒業研究	アプリケーションの企画から実装まで行い、プレゼンする。 4年間の学習の集大成を発表し学習意欲向上に繋げる。	有限会社 山ノ井商事

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

基本は企業現場からの教員採用を前提としているが、学校内部で教員年数を重ねていくにつれて、ややもすれば過去の知識・経験のまま陳腐化した教育を施す危険性もある。このため、就業規則第57条等による教育・研修体制、特に外部研修を充実させ、日々の研鑽とスキルアップを図る方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ICT(情報通信技術)を活用したふくしまの復興と地域活性化」(連携企業等:株式会社LIGHTz CKO、株式会社ニューロープ)  
 期間:令和元年11月13日(水) 対象:情報分野教員  
 内容:製造現場における熟達者思考の汎知化、およびAIとしての活用方法、ファッション領域のバリューチェーン各所に浸透を続けるAI(人工知能)の背景と実例

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「AIデータサイエンス学科の構築とコア技術」(連携企業等:(一社)全国専門学校経営研究会)  
 期間:令和元年8月22日(木)~23日(金) 対象:情報分野職員  
 内容:AI学科、AIコースを立ち上げるにあたってのカリキュラム案  
 機械学習の概要及びプログラミング演習、就職アピールポイントの指導

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ICT(情報通信技術)を活用したふくしまの復興と地域活性化」(連携企業等:株式会社LIGHTz CKO、株式会社ニューロープ)  
 対象:情報分野教員  
 内容:製造現場における熟達者思考の汎知化、およびAIとしての活用方法、ファッション領域のバリューチェーン各所に浸透を続けるAI(人工知能)の背景と実例

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「AIデータサイエンス学科の構築とコア技術」(連携企業等:(一社)全国専門学校経営研究会)  
 対象:情報分野職員  
 内容:AI学科、AIコースを立ち上げるにあたってのカリキュラム案  
 機械学習の概要及びプログラミング演習、就職アピールポイントの指導

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

平成30年度委員会、自己点検評価に基づき不備な点の改善、方向性の決定、優良な点の継続、及び次年度以降の解決・取組課題について協議実施。評価委員からの意見として「管理運営」に関して防犯システム自体は勿論有効だが、犯罪抑止の観点より「防犯カメラの設置」についての犯罪抑止事例が意見として提案され設置を強く勧められ平成29年6月よりカメラを設置した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年5月31日現在

名前	所属	任期	種別
小野 隆	一般社団法人 福島県自動車整備振興会	平成31年3月20日～ 令和2年3月31日(1年)	公共団体委員
嶋影 健一	公益社団法人 日本建築家協会 東北支部	平成31年3月20日～ 令和2年3月31日(1年)	業界団体委員
中林 寿文	特定非営利活動法人 国際ゲーム開発者協会	平成31年3月20日～ 令和2年3月31日(1年)	企業等委員
若松 信一郎	光栄電気通信工業株式会社	平成31年3月20日～ 令和2年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 理夫	福島大学 共生システム理工学類	平成31年3月20日～ 令和2年3月31日(1年)	教授

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
URL: <http://www.wiz.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・コンペ・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 各学科等の教育	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教職員	教育の内容
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育目標の達成度と教育効果
(5) 様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6) 学生の生活支援	教育の実施体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生支援
(8) 学校の財務	管理運営(法人)
(9) 学校評価	管理運営
(10) 国際連携の状況	社会的活動
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
URL: <http://www.wiz.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報工学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コンピュータ概論	IT技術者として必要なIT技術の基本知識を身に付ける。 情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1 前	108	-	○			○	○			
○			アルゴリズム	IT技術者として必要なアルゴリズムの基本知識を身に付ける。 情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1 前	60	-	○			○	○			
○			システム開発と情報化	システム開発を行うための基本的手順、開発手法、管理手法を学習する。 情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1 前	108	-	○			○	○			
○			Java	IT技術者（プログラマ）として必要なJavaプログラミング技術を身に付ける。 情報処理技術者試験合格の為の言語知識の習得。	1 通	230	-		○		○	○			
○			午前知識応用	基本情報技術者試験合格に向けた午前知識応用問題の講義。	1 前	40	-	○			○	○			
○			アプリケーション実習Ⅰ	文書作成ソフト「Word」の基本的な利用法を学ぶ。	1 前	24	-				○	○	○		
○			アプリケーション実習Ⅱ	表計算ソフト「Excel」の基本的な利用法を学ぶ。	1 後	60	-				○	○	○		
○			プレゼンテーションⅠ	社会人として必要なプレゼンテーション知識を身に付ける。 模擬プレゼンテーションを通して発表のノウハウを身に付ける。	1 後	30	-				○	○	○		
○			就職実務	就職活動の基本的な流れを理解する。 就職活動に必要な知識を身に付ける。	1 後	40	-				○	○	○		
合計					9科目	700単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合には、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報工学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報処理技術者試験特別講義	経済産業省「ITパスポート試験」合格に向けた講義を行う。 週1回以上 業者模試、過去問題により到達状況を把握し本試験合格を目指す。	1後	240	-	○			○	○			
○			C#	C#言語で学んだ知識を活かし、ストアアプリ開発を学ぶ。 XAMLによる画面制作・非同期API連携等の技術を学ぶ。	2前	72	-			○	○	○			
○			Webデザイン演習	HTML/CSSの基礎を学びWebページを作成する。	2後	72	-		○		○	○			
○			通信ネットワーク	ネットワークの基礎学習を行う。 コマンドプロンプトにてコマンド操作を学習する。	2後	15	-		○		○	○			
○			Access	Accessを使いDBの基礎を理解する。 Accessを使用した業務用フォームの作成方法を学ぶ。	2前	36	-			○	○	○			
○			Visual Basic	Visual Basicを用いて、業務用アプリケーションの作成を行う。	2前	72	-			○	○	○			
○			Oracle実習	リレーショナルデータベースの必要性と考え方について学ぶ。 SQLの習得を行う。	2後	30	-			○	○	○			
○			LAMP演習	Linux, Appach, MySQL, PHPを利用したWebシステム構築を行う。	2後	60	-		○		○	○			
○			UXデザイン演習	ビジョン提案型デザイン手法でのアプリ制作の手法を学ぶ。 ユーザーを意識したアプリケーション作成を出来るようにする。	2後	36	-		○		○	○			
合計					9科目		633単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報工学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プレゼンテーションⅡ	グループワークを行いコミュニケーション能力の向上を図る。 Powerによる発表を行いプレゼンテーション能力の向上を図る。	2通	72	-			○	○		○		
○			ImagineCup制作	Windowsストアアプリ開発で学んできた内容を踏まえ、ImagineCup入賞に向けたアプリ制作を行う。	2後	147	-			○	○		○		
○			情報処理技術者試験特別講義	経済産業省「基本情報技術者試験合格」合格に向けた講義を行う。	2通	420	-	○			○		○		
○			LAMP演習	PHPを使用し、実際にWebサイトを開発することで、要件定義からデバッグまでの工程を経験する。	3前	144	-		○		○		○		○
○			就職実務	就職試験に向けた準備を整える。 実際の職場で求められるビジネススキル・ビジネスマナーを身に付ける。	3後	40	-	○			○		○		
○			モダンスタイルアプリケーション制作	Windowsストアアプリを作成し、VisualStudioの使用法とアプリ制作の基礎を学ぶ。	3前	108	-			○	○		○		
○			ImagineCup制作Ⅰ	完成したアプリケーションへの機能追加。 ImagineCup入賞に向けたプレゼンテーション能力の向上。	3前	147	-			○	○		○		
○			ImagineCup集中制作	2年次で学んだC#の内容を踏まえ、ImagineCup入賞に向けたアプリケーション制作を行う。	3後	180	-			○	○		○		
○			情報処理技術者試験特別講義	経済産業省「応用情報技術者試験合格」合格に向けた講義を行う。	3通	240	-	○			○		○		
合計					9科目	1498単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報工学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ニューテクノロジー実習	既存のプログラミングにこだわらず、新しいデバイスについてのプログラミング技術を習得する。	4前	144	-			○	○		○		
○			卒業研究	アプリケーションの企画から実装まで行い、プレゼンする。 4年間の学習の集大成を発表し学習意欲向上に繋げる。	4後	123				○	○			○ ○	
○			キャリアビジョン	志望企業へ就職後の自身のキャリアパスを明確化する。 今後の学習意欲向上に繋げる。	4前	36		○			○		○		
○			ニューテクノロジーシステム開発	IoTプログラミングについて学ぶとともに、電子機器の制御手法を体得する。 pythonプログラミングの基礎を学ぶ。	4前	120				○	○		○		
○			システム開発ケーススタディ	実際のSEとしての業務の流れ(要件定義～設計)を実習を通して疑似的に経験する。	4後	120				○	○		○		
	○		IoT・ドローンテクノロジー実習	ドローンの仕組みを理解する。 Scratchを使用したドローンの操縦方法を理解する。	4前	180				○	○		○		
	○		IoT・ドローンテクノロジー演習	プログラム言語を用いたドローンの操縦方法を理解する。 RaspberryPiを使用したドローンの制御方法を理解する。	4後	240		○			○		○		
	○		ITビッグデータ活用実習	ビッグデータ解析の為に使用するライブラリの使い方を理解する。 Microsoft Azureを使用したビッグデータ解析方法を理解する。	4前	180				○	○		○		
	○		ITビッグデータ演習	RaspberryPiを使用したデータ解析の州法を理解する。 機械学習、ディープラーニングの理解を深める。	4後	240		○			○		○		
合計					9科目	963単位時間( )			単位						
							合計時間数			3794単位時間					
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		17週					

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合には、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。